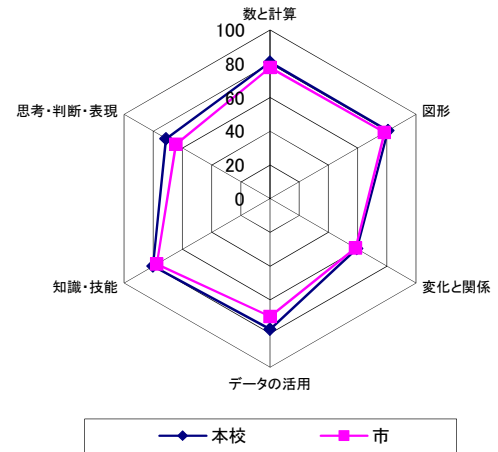


宇都宮市立錦小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	80.9	77.7	78.6
	図形	80.8	78.4	74.4
	変化と関係	59.5	58.7	53.0
	データの活用	77.5	69.9	57.2
観点別	知識・技能	80.1	77.5	74.0
	思考・判断・表現	71.1	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は80.9%で市より3.2ポイント高かった。 ○基準量が分数の場合において、分数倍の比較量を求める問題では正答率が72.5%で市より11ポイント高かった。 ○文字を使って2つの数量の関係を1つの式に表す問題の正答率は86.3%で市より15.1ポイント高かった。 ●小数第一位×小数第一位の計算問題では、正答率が70.6%で市より9.2ポイント低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算の反復練習を継続して行い、定着を図るとともに、個別指導を通して、一人一人のさらなる習熟を図る。 具体的な場面と式を結びつける学習を可能な限り取り入れ、活用する力を養う。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は80.8%で市より2.4ポイント高かった。 ○底面積と高さから角柱の体積を求める問題の正答率は86.3%で市より5ポイント高かった。 ○ひし形の面積を求める問題の正答率は80.4%で市より4.6ポイント高かった。 ●三角柱の展開図を組み立てたときに重なる頂点を問う問題の正答率は78.4%で市より9.2ポイント低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 示された図形の面積を求めたり、求め方について筋道を立てて考え説明する力はよく身につけているので、更なる定着を図っていく。また、具体物を操作しながら、図形を組み立てたり分解したりする活動を取り入れ、図形についての見方や感覚を豊かにしていく。
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は59.5%で、市より0.8ポイント高かった。 ○表から面積と人数の割合を求め、どのプールが混んでいるかを問う問題の正答率は68.6%で市より13.7ポイント高かった。 ●百分率について理解し、割引後の値段を求める問題の正答率は54.9%で市より12ポイント低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 単位量あたりの大きさ・速さの問題に苦手意識をもっている児童には、比較量と基準量の求め方や違いについての基本問題に反復して取り組ませる。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は77.5%で、市より7.6ポイント高かった。 ○ドットプロットから、最頻値と中央値を読み取る問題の正答率は88.2%で市より17.3ポイント高かった。 ○表から平均を求める問題の正答率は94.1%で市より8.3ポイント高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表値の意味や求め方、度数分布を表す表やグラフの特徴と用い方について、様々な問題に取り組ませることで、表やグラフで表されたデータを多面的に分析し、活用する力の伸長を図る。 データを収集したり分析したりする際、身近で関心の高い題材についてのデータを取り入れ、データ活用への関心を高める。